

令和6年度 修善寺東こども園教育・保育活動への評価（園関係者評価）

園目標 「ともだち いっぱい げんきな子」

重点目標 「やってみよう」「かんがえよう」「つたえあおう」

十分達成A
やや不十分C

おおむね達成B
不十分D

保護者の園教育・保育活動点検アンケート及び職員の自己評価実施後、園評価委員4名の方に、園運営全般、子どもの活動の様子、保育者の指導方法や目標の達成度等について貴重なご意見をいただきました。合わせて、今後に向けての助言等もいただきましたので、来年度の教育保育課程編成に活かしていきたいと思います。評価は右表のとおりです。

「園評価関係者の皆様からいただいた意見等」

- 子どもたちが楽しんでいる姿が見られた。行事等も手づくり感を感じた。
- 教材研究や発達の見通し、活動の予想に基づいた環境構成と援助をしっかりと行っている。
- ヒヤリハット、アクシデントの記録表の作成をしっかりとしている。見える化したシートを見て、安全を意識していることが分かった。
- 散歩等で見た時、職員の姿や配置体制から安全に配慮している様子が分かった。
- アレルギー、誤嚥等への対応について、昨今のニュースを見て、職員の苦勞を感じる。弁当持参時の対応についてはどうか。
- 職員がアレルギー児に付き、接触がないようにしている。保護者には、誤飲がないように一口大にカットしてもらうよう周知している。
- 子どもの成長や生活の様子を具体的に分かりやすく伝えることで、保護者は安心する。
- 架け橋プログラムは、学校教育課と子育て支援課の連携で、修善寺東小学校と園がモデルとして行った。互いに「知る」ことが大事である。
- 園児、児童の様子を授業公開や研修を通し知ること、刺激となった。
- 地域探索はよかった。小学校でも、地域について学ぶ機会があるので、経験を活かせる。

「来年度に向けて（今後の改善方策）」

- ・安心、安全に過ごせるように、安全点検を徹底すると共に、不備や危険個所の対応を保護者に周知していく。
- ・伊豆中学校が開校することで、環境が大きく変わる。緊急時の対応や、避難訓練等協力体制の構築をして行っていく。
- ・園での業務の実情、組織の現状を踏まえて、「保育の質の向上」のために、業務改善のアプローチを考え実践に向けて進めていく。

領域	評価項目	評価
重点目標	1 好きな遊びを見つけ、繰り返し取り組めるようにしているか。	A
	2 試したり考えたりしながら、友達と一緒に遊びを楽しめるようにしているか。	A
	3 自分の思いを伝え、人の話を聞こうとするようにしているか。	A
こども園における教育・保育	4 個々の発達や経験差を十分把握、理解し、適切な援助が繰り返し行われているか。	A
	5 個々の生活リズムの違いをふまえ、安心して穏やかな気持ちで過ごせるようにしているか。	A
	6 友達や保育教諭等と一緒に活動する中で遊びが広がるような環境を構成しているか。	A
安全管理・指導	7 緊急時の対応を身に付けられるような経験をさせているか。	A
保健管理・指導	8 日常の健康観察や疾病予防、アレルギー対策や離乳食のための取り組みが行われているか。	A
特別支援	9 個々の状況に応じた支援方法を職員間で共有し、家庭と連携をとりながら、保育・教育にあたっているか。	A
組織運営	10 全職員が組織の一員として経営に参画することを意識し、改善に向けて取り組んでいるか。	B
研修体制	11 伊豆市の目標や園の研修テーマに向けて共通理解をもち、成果と課題を明らかにしながら取り組んでいるか。	A
教育・保育環境の整備	12 定期的に安全点検をし、施設の不備を改善しているか。	B
家庭との連携・協力	13 子どもの成長や生活の様子を具体的に伝え、家庭と連携がとれているか。	A
学校との連携・協力	14 こども園と小学校の継続的な交流をし、相互理解を深めているか。	A
地域との連携・協力	15 地域機関や自然を活かした保育実践が行われているか。	A

<ご意見・苦情について>

園へのご意見・ご要望等はありませんでした。今後何かありましたらお知らせください。